

# アシストスーツ導入進む

## 作業負担軽減 ■ 効率化さらに

神奈川県のJ A相模原市は、農作業などで体にかかる負担を軽減するアシストスーツ「マッスルスーツ」を購買品として取り扱い始めた。高齢化や担い手不足に悩む農家の省力化、作業効率の向上を目指す。

条件はあるものの、導入経費には神奈川県の補助も利用できる。購買品を担当する同J A営農経済部購買課が申請の相談にも応じ、積極的な利用を呼びかける。

9月上旬には、同J A新磯支店管内の組合員で、小松菜などを栽培する佐藤寛さん(49)に納品した。

佐藤さんが導入した

J A 神奈川県相模原市  
補助制度活用呼びかけ



マッスルスーツを着用してニンジンの間引きを行う佐藤さん  
(神奈川県相模原市で)

「マッスルスーツエブリィ」は空気の力を利用した人工筋肉で、約25kgの物を少ない負荷で持ち上げられる補助力を持つ。J Aの担当者に相談して制度を利用し、経費のうち、約3分の1の補助を受けることができた。

佐藤さんは「重い物を持ち上げる他、中腰を保つ作業に重宝している。今の時期は畑への定植や間引き作業の時に使っているが、体感で1.5倍ほどの速さで作業が済む。欠かせないアイテムになっている」と話す。

J A営農経済部購買課の岡本吉正さんは「農業は重労働。体を痛めて離農してしまう人もいる。健康で長く農業を続けていけるよう、マッスルスーツなどの購買品や、補助制度を活用してもらえたら」と呼びかける。

(神奈川・相模原)